

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導 ※ JSL=Japanese as a second language	<p>① 確かな学力の定着および学習習慣の確立に向けた取組を行う。</p> <p>② 自己肯定感とコミュニケーション力の向上を目指し、一層の授業改善をすすめる。</p> <p>③ 個々の能力・状況に応じた学習支援体制を整える。</p> <p>④ 日本語を母語としない(JSL※)生徒に対しても確かな学力の保証をはかる。</p>	<p>① 学習習慣が定着し、生徒が「わかる」「学力がついた」と実感できるよう取組をすすめる。</p> <p>④ JSL 生徒の学習環境に配慮し、愛川高校での学習における問題の解決に努めるようにする。</p>	<p>① 朝学習等を通じて生活習慣を確立するとともに、家庭においても短時間でも学習に取り組むよう課題等を設定する。振り返り学習を行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。</p> <p>④ JSL 生徒の授業展開や教材の精選等をし、日本語や日本文化の理解をすすめる。</p>	<p>① 生徒による授業評価の項目「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができたか」において、評価4・3の計が90%を超えることができたか。</p> <p>④ JSL 生徒の授業展開や体制において配慮、工夫ができたか。クラスでの日常生活や授業、行事等において、一般生徒との交流する場面が多くなったか。</p>					
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>① 地域の中の学校として地域とともに規範意識の向上を図り、リーダーシップを育成する事でコミュニケーション能力の向上をめざす。</p> <p>② 個別支援を積極的に推進し個々に応じた指導を行う。</p> <p>③ 中学校との連携や交流を生かし、部活動・学校行事の活性化を図る。</p> <p>④ 生徒の主体的な学校行事への取組を推進する。その活動を通して自己肯定感の醸成とコミュニケーション力の向上を図る。</p>	<p>① 規範意識の向上をめざし、問題行動の未然防止に取り組む。そのためのリーダー育成に努める。</p> <p>② 面談等を通して個別支援の必要性を共有し継続的に指導をすすめていく。</p> <p>③ 生徒会活動を活性化し、その活動を通して、生徒の自己肯定感の醸成とコミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<p>① 放課後の交通安全指導等を通して規範意識の向上や問題行動の未然防止に努める。</p> <p>② 年複数回実施の生徒との面談を通して積極的に生徒理解に努める。</p> <p>③ 生徒会本部を中心とした、中学校等との交流活動を円滑に進める。校内においては、部活動や委員会活動、学校行事を生徒の主体性を重視した企画運営で行い、自己肯定感の醸成を図る。</p>	<p>① 問題行動の件数を前年度よりも3割減らすことができたか。</p> <p>② 面談等を通して個別指導の必要性を職員間で共有し短期的な目標を掲げる事ができたか。</p> <p>③ 地域や中学校との多くの交流活動を実施することができたか。また、行事の企画運営で生徒が主体性をもって活動を行うことができ、自己肯定感の醸成につながったか。</p>					

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①総合的な探究の時間の活用を含む地域と連携した取組を用いながら、生徒の3年間を見通した指導により、自分の価値観を見つめ、関心分野を広げ深めた上で、主体的に希望する進路指導を実現する。	総合的な探究の時間の活用を中心としたキャリア教育の推進により、将来を見据えた進路選択が可能となる進路指導体制を確立し、保護者を含めた生徒のための支援体制を構築する。	総合的な探究の時間の活用を組織的に、かつ継続的なものとして構築する。探究活動や成果発表会などの探究の手法を進路決定に活用する。また、保護者向け説明会など保護者の進路意識を高める働きかけを行い、生徒とともに進路活動をすすめる体制を構築する。	生徒が自ら目標を設定し、挑戦できたか。 ・総合的な探究の時間を活用できたか。 ・生徒の進路希望の達成率87%以上を超えることができたか。 ・保護者向けの進路行事を構築できたか。					
4 地域等との協働	①学校運営協議会を中心に地域との協働を目指す。また、地域・学校協働本部との連携を円滑にし、学校外の学修を推進する。	①地域連携サークルの活動を推進する。また、地域・学校協働本部(明日楓会)と連携し、学校外の学修を推進する。	①地域連携サークル各部門の活動を通じ連携生の主体的、組織的に育成する。また、学校外の学修は、明日楓会と連携し、生徒の要望に対応する事業所の確保を進める。	①生徒の主体性を引き出すことができたか。グループと教科の連携ができていたか。学校が提示するボランティアやインターンシップが生徒の要望に答えられたか					
5 学校管理 学校運営	①「学び続ける教師、変化に対応できる教師」を目指し、事故のない安全安心な学校運営の推進をはかる。 ②地域との連携を深めながら、生徒にとって安全安心な学校環境を構築する。	①安全安心な学校運営のため不祥事防止に向け取組を職員が主体的に行う。 ②地域との連携を深めながら、生徒・職員に対する現実に即した防災研修・訓練を充実させる。	①定期的な不祥事防止会議の内容を各グループで独自に考え実施することで事故不祥事を他人事にしない職員集団をつくる。 ②F G C員、地域連携サークルを中心に地域と連携した防火防災活動を行う。	①事故不祥事を他人事にしない研修・啓発活動を主体的に実施することができたか。 ②連携した防火防災活動・訓練が実施できたか。多くの生徒・職員が参加できたか。					